

# 生命を与えられ、生かされている謙虚さ

2020年9月

人が心身ともに健全に生きていくために、自然豊かな環境との触れ合いが欠かせません。まして、子どもたちの成長を思うと、五感を活性化してくれる自然との触れ合い、樹々の四季折々の変化、生命の摂理を教えてくれるさまざまな生き物たちとの触れ合いは必要不可欠です。私たちも生命ある生き物の一環であることに気づかされ、なおかつ生命のつながりをも実感させてくれるのが、身近な自然の生きものたちです。そんなことを子どものときに体験しておくという、かつては当たり前のことが今ではなかなかできなくなってきました。そんな地域と時代だからこそ、園庭に雑木林や小川、畑などの自然の営みを再現し、生き物の気配あふれる自然環境としての園庭にしました。子どもたちに必要なのは、管理され、整えられた「庭」ではなく、さまざまな生き物が訪れ、日々年ごとに変化していく、心癒される自然環境としての園庭空間なのかもしれません。そして神様の創造の素晴らしさに感動する、それこそが私たちのめざす園庭です。

2020年夏、コロナウィルスで私たち人間は自然の前に無力だということを実感されました。園庭でお日様に顔を向けて咲く向日葵は、自然に帰りなさいと話しかけてきます。コロナは、自然の大きな循環の中で生かされていることの謙虚さを知り、原点に戻って見つめ直すようにとの神様のメッセージなのかもしれません。

